



TITLE:

表紙・目次 (泌尿器科紀要 第26巻
第9号) 編集後記・購読要項・投稿
内規

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・目次 (泌尿器科紀要 第26巻第9号) 編集後記・購読要項・投稿内
規. 泌尿器科紀要 1980, 26(9): 1200-1200

ISSUE DATE:

1980-09

URL:

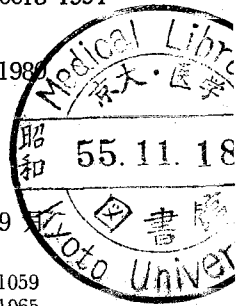
<http://hdl.handle.net/2433/122718>

RIGHT:

泌 尿 器 科 紀 要

第 26 巻 第 9 号

1980年9月



- Hemofiltration の研究, Na の動態について.....田中 寛・ほか...1059
 人工腎臓の薬物除去能, cefazolin について.....田中 寛・ほか...1065
 タイ国の尿路結石症—わが国の尿路結石症との比較.....竹内 秀雄・ほか...1071
 癌化学療法時の準無菌室の試み.....林正 健二・ほか...1079
 進行辜丸腫瘍に対するリンパ節郭清, 放射線療法, 化学療法
 (Bleomycin-Vinblastine) の3者併用療法.....田利 清信・ほか...1085
 過去10年間に於ける膀胱頸部硬化症の臨床的観察.....勝見 哲郎・ほか...1093
 三重大学泌尿器科における1968年~1979年の12年間の外来患者臨床統計.....堀 夏樹・ほか...1101
 頸椎転移巣から偶然に発見された腎細胞癌.....友吉 唯夫・ほか...1109
 小児黄色肉芽腫性腎盂腎炎の1例.....中村 順・ほか...1117
 自家腎移植術により腎保存を行なった限局性尿管アミロイドーシスの治療経験.....小川 洋史・ほか...1125
 原発性限局性膀胱アミロイドーシスの1例.....和志田裕人・ほか...1131
 女児傍尿道嚢腫の1例.....白井 千博・田近 栄司...1139
 小児辜丸腫瘍 (embryonal cell carcinoma) の治療経験 (第1報)滝 洋二・ほか...1143
 乳児両側性陰嚢乳糜腫の1例.....寺地 敏郎・ほか...1149
 膀胱癌に対するブレオマイシン加温熱療法.....中嶋 和喜・ほか...1153
 ペブレオマイシンによる前立腺癌の治療.....黒田 昌男・ほか...1163
 膀胱腫瘍に対する N_1 -(2'-Tetrahydrofuryl)-5-Fluorouracil (Futraful) 投与の臨床経験.....伊藤 登・ほか...1169
 前立腺癌に対する Estramustine phosphate disodium の臨床的検討.....木村 哲・ほか...1177
 尿路感染症における Pipemidic acid の使用経験.....峰山 浩忠・ほか...1183
 下部尿路の外科的手術症例に対する Flavoxate hydrochloride の臨床評価.....奥山 明彦・ほか...1197
- Sodium Kinetics During HemofiltrationH. Tanaka et al...1059
 Removal of Cefazolin by Artificial KidneyH. Tanaka et al...1065
 Urolithiasis in Thailand: A Comparative Study with Urolithiasis in JapanH. Takeuchi et al...1071
 A Trial of Sterilized Isolation Room at the Chemotherapy of CancerK. Rinsho et al...1079
 Multimodal Treatment of Advanced Testicular Tumor with Reductive Lymphadenectomy, Radiotherapy and Chemotherapy with Bleomycin and VinblastineK. Tari et al...1085
 Clinical Studies on Bladder Neck ContractureT. Katsumi et al...1093
 Clinical Statistics on Outpatients at the Urological Department of Mie University Hospital during Recent Twelve Years (1968~1979).....N. Hori et al...1101
 Renal Cell Carcinoma Incidentally Detected during the Examinations for Tumors of the Cervical SpineT. Tomoyoshi et al...1109
 Infantile Xanthogranulomatous Pyelonephritis: Report of a Case.....J. Nakamura et al...1117
 Localized Amyloidosis of the Ureter Treated by Renal Autotransplantation: Report of a CaseH. Ogawa et al...1125
 Primary Localized Amyloidosis of the Bladder: A Case ReportH. Washida et al...1131
 A Case of Paraurethral CystK. Shirai and E. Tazika...1139
 Massive Retroperitoneal Metastasis of the Embryonal Cell Carcinoma of the Infantile Testis: Report of a Case.....Y. Taki et al...1143
 A Case of Bilateral Chylocele in Infant.....T. Terachi et al...1149
 A Combination Therapy of Hyperthermia and Bleomycin for Bladder CancerK. Nakajima et al...1153
 Treatment of Prostatic Carcinoma with PepleomycinM. Kuroda et al...1163
 Clinical Experience with N_1 -(2'-Tetrahydrofuryl)-5-Fluorouracil (Futraful) Therapy for Tumor of the Bladder.....N. Ito et al...1169
 Clinical Evaluation of Estramustine Phosphate Disodium in Prostatic Cancer.....S. Kimura et al...1177
 Clinical Experience with Pipemidic Acid in Urinary Tract InfectionH. Mineyama et al...1183
 Clinical Evaluation of Flavoxate Hydrochloride on Cases Treated Surgically in Lower Urinary Tract.....A. Okuyama et al...1197

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M.D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,

Kyoto University, Kyoto Japan 606

京都大学医学部泌尿器科学教室

泌尿紀要

Acta Urol. Jap.

禁 帯 出

到着後1ヶ月間

編 集 後 記

医学教育について (2)

「わたしは教育をするために医師になったのではない。臨床をやるためあるいは医学を研究するためである。」と主張されるむきもあるし、それも確かにそうだといえる。筆者も教育者になろうと思って医学を志したのではない。

しかし現実はどうかといえば、大学において医学生を教え、研修医などに卒後教育をしているのは医師でありあるいは医学研究者である。教育機関以外の第一線の病院においても、研修医にあるいは若い医師に、経験の豊かな先輩医師が教育を行っている。

わたしは教育をするために医師になったのではないといっても、医師になってみるとそこには教育という大きな役割があるのが現実である。現実から逃避することはできない。その上、教育はやり甲斐のあることである。立派に、効果的にやろうではないか。そのために教育について考え、話し合い、それぞれの立場でよりよい教育ができるように努力しようではないか。(O. Y.)

購 読 要 項

1. 発行は原則として毎月とし、年間購読者を会員とします。
2. 会員は年間予約購読料と 5,000 円 (送料とも) 前納していただきます。
分売は原則としていたしません。払込みは振替に限り、口座番号 京都4772番 泌尿器科紀要編集部宛。外国は送料とも年間25ドルです。
3. 入会は氏名 (フリガナ)、住所 (雑誌郵送先)、勤務先をご記入のうえ編集部あて、はがきにてお申し込みください。

投 稿 内 規 (1969年1月改正)

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他、和文または英文とします。
2. 原稿の長さは制限しませんが簡潔に願います。
3. 和文原稿は 400 字詰原稿用紙横書きとし、当用漢字、平かな、現代かなづかいを用い、片かなには「」を要しません。表、図の説明はなるべく英文にしてください。文中欧語学術用語は固有名詞、記号以外はキャピタルではじめる必要はありません。必ず英文抄録をつけ、これには英文の表題、所属機関名、ローマ字著者名も記入しておいてください。
英文抄録は詳細なものを歓迎します。ご希望の場合は当編集部にて作成しますので、抄録用の和文原稿を別につけてください。稿訳の実費は申し受けません。
4. 英文原稿の場合はタイプでダブルスペース打とし、和文表題と英文抄録をつけてください。
5. 数字はすべて算用数字を使用し、数量の単位は m, cm, mm, cc, ml, kg, g, mg, °C, μ , %, PH などを使用し、は不要です。また BDN IVP NPN PSP TUR など、を要しません。
6. 表、図、写真などはすべて別紙とし、説明は和文、英文を問わず Table 1, Fig. 2 等としてください。
7. 文献の書式は次のようにしてください。
A 雑誌の場合 著者名: 誌名, 巻数: 頁数, 西暦年次。(論文題名は自由です)
文献名は正式略称を用いてください。
例: 日泌尿会誌, 臨床皮泌, 皮と泌, 泌尿紀要, 臨泌; J. Urol., Invest. Urol., Zschr. Urol. 等。
B 単行本の場合 著者氏名: 書名, 版数, Vol. 数, p. 数, 発行所, 出版地, 年次。
8. 校正は初校のみ著者にもお願いし、再校以降は編集部のみがおこないます。著者複数の場合、校正責任者をお示しください。
9. 原稿は返却いたします。
10. 原稿到達日を受付日とし、予約による受付はいたしません。
11. 原稿送り先は、〒606 京都市左京区聖護院 京大病院 泌尿器科紀要編集部、書留便。

泌尿器科紀要 第26巻 第9号	1980年9月25日 印刷	1980年9月30日 発行
創刊 稲田 務	顧問 加藤 篤二	定価 500 円 (送料別)
〒606 京都市左京区聖護院川原町53 京都大学医学部泌尿器科学教室 電話 (075) 751-3327 (直通)		
発行 吉田 修	発行所 泌尿器科紀要編集部	
印刷所 山代印刷株式会社	京都市上京区寺之内通小川西入	
